比翼連理花廼志満臺第三編巻之中

東都　松亭金水編次

第十五回

琴「〽扇といふ字は要の名。夕顔といふ字は花の名。筆も自在とく徳ありて冥加にも世の人君。コロリンシヤン

おきよ「〽和のや今宵同くヨ

井ア　お主人の稽古の汁な。ア大概に遊ぐことをその〽あん思りん退屈しきつつ。チヨット　陰ゆを招きます　者〽アノ　維公緑つ節へと

春うんざりく「アイ　先刻来まじらぶ。私しやアにも利ぞとぞ琴

と引(ひい)て掛(か)されんでへ。久(ひさ)しく火鉢(ひばち)の傍(そば)に居(か)なさるけが娘(むす)さんは

何処(どこ)ハ往(ゆく)といわるアイ 今朝(けさ)出(で)かけまするが 何処(どこ)へ往(ゆき)まし

云衷にはまいりませんと。云(いへ)ばまゐりやう お持(うちやう)て参(もい)さのんぞよ。豊後(ぶんごとちやう)

だまつて帰(かへ)さ極(きはまり)て。どうでも出(で)て往(ゆき)まする 吉「友様(さま)がまゐし夫(おれ)

ろくに律儀(りり)のでも来(き)ませんでござる。襖(ふすま)のうちにさせん居(ちやア)ねへ ナニ

人(ひと)家(うち)の金(いつ)を過(すぎ)しても。息(や)しまうつて他(とも)も出(で)きつて自己(おのれ)が納(をさ)め

身(み)じやアあるまへし。勿論(もちろん)さりやア。自己(おのれ)めも半分(ちび)ぐの云(うんぐさ)ぐの

と。少(ちつと)ハまゐつて居(ゐ)る金(かね)もあるけれども。そりやア貴(きさ)りめへぞ

東丸家臣京ふ。ござる呂縁戯ある奴が申すものか。こゝ秘々
きん「ヲイそりやあ掛さけれど。ヲノ人争金丸申すうちへ
ヤレコレと云て今濡まゝてきてきて。構ひつけ給へられ
まるのも。縁より家の無ちしいけれど。おまへが介抱ござる
移しやう来て由かまゝござを子お前生き一寸アまゝが宜の子。おまく
しハト出しぬけに門口を叩く入來る郡山源六おろしの姿ハ引
ハしれて。肩の破れし襤褸面。汚れし衣に汚れし羽織着し
足袋の黒羽二重。小袖の膝に汁見ゆる。裾ハみゆるめのど

くわて。紋の所（ところ）ハ贔屓（ひいき）連中にあり　後へ出す　御兄弟（きやうだい）衆へくる　表へ出す

今朝（けさ）ハまゐりまして。お客人（きやくじん）先刻（さつき）も来（き）て居らるゝぞろぞろが。又お出（いで）の

事（?）ぞ用でもあるのか　後へ十二　きつゝる用（よう）もねへが。ちと近（ひさ）く逢

あいさつぶらくと出（で）さしやせ。此中（このぢう）も来（き）まする程（ほど）がおりて

我等（かは）今日（けふ）ハ簡（ひま）じやとりやす。此頃（このごろ）ハ何（なん）ぞおりやるハ

るぐも出精（でせい）いたして。色々（いろいろ）稽古（けいこ）勝（がち）じややら　表へ一ツ兼世人何（なに）も

おりしるいるハあいが。稽古（けいこ）ッても色々（いろいろ）く用（よう）がおりなさる出来（できさ）

もまるのサ。早（はや）く出世へ立つやア。おりまするのぞへ。まァちとおはい

よい銭（ぜに）もうけでござる人ぞ。そしてまた私（わし）を世（せ）話（わ）すつくでも　おきやア
きまへし。何（なん）銭（ぞ）仕（し）ても宜（い）いじやア、あるい之（の）大（おれ）切（?）なお世帯（せたい）ぢやト
欺（あざむきとる）べば　道楽（どうらく）。大術（ひゐかう）の傍（そば）へ出川と居り（すい）へ（??）と言（い）工。大
撥（げく）ね唱（しやべ）川て居（お）ろ工。おまても座（や）敷ふ居る時（じ）ぶんみやア
時（とき）ぐよ言（き）ひつけく。さて親（う）のよ若（きめの）様が欲（み）いの。親（う）いの業（おび）が
欲（り）いのといふときみやア。そまへ様まへて出（と）川さへでも
あり。未（?）の銭（ぜに）から居（ゐ）るうら。一切（きさい）自（おれ）己が勝（ま）なつて（それ）あらう
後（のち）ハ髪（ちうあひ）結ふ出るとも止（かめ）さしやア　ねへら。勿論（もちろん）退轉（たいてん）して

かう後(のち)ハ何(なん)とかしても城(しろ)がまハらしぞ。手(て)めへの世話(せわ)に
なつても有(ある)ハいよいよ。手前(てまへ)の忠ニ実(じつ)ハせしまう
雖(いへど)も出さ理(つみ)。嫡(ちやくと)や三門と責(ころの)ごッても。其のゝ君(おん)でもあるめへス
そこまでの頃(ごろ)ハ流くしろく。邂逅(まくく)来りやア懐(ところ)へ向で出(で)
て往(いけ)がしに今親(おやよ)と云。憫(ふん)まりなる義理(ぎり)あるしだ。まんが世(さんみ)でも
それまで〆ドやア済(すむ)めへ。去一ハこおらアしるまい云(いひ)おゝでねへ。マアよく
積(つも)つて見(み)なせへ。侍(さぶらい)に身(さうと)を、悪(まい)ちやア宝門と云(いひ)物(とん)へのならへけれ
ど。我(コレサー)の事なんのでも。彼是(かれこれ)と云(やう)ておくまでゝもらう。小門そお

まへに身代任せてあり。暑イ寒イ不知処等も紙かけ
ます。廻（まは）つてくらまするッ奥へ。天窓（あたま）の臭（にほ）ひを嗅（か）ぐ。二千や三千の
銭とても歩行（あるく）より。損（そん）ぐらゐと思（おも）ふて。おまへの世（せ）
話にあいくく居ぐさ。今の切（せつ）なさおまへてござりまするちやア元（もと）の鳶（とんび）、
塲ハ百銭もあつて仕舞し稼（かせ）ぐ流まるあゐ西へ一文
すこしでもけちをしたらア困（こま）るウイ欲（よく）ハ出（で）ぬものかアねへ
ないぞ。おまへハまたあんまり流まるなくあれどツても女の疲れ
を幽（ゆう）めして来るとも去のじやアないぞ。だからくしみじみく退

[illegible]さッて。おまへの様な[illegible]くにある人もざらにものではねへ餘まり御さんないじやアなへか。[illegible]して工面でも欲をいッちやアお出。[illegible]して来ておくまでないを如の[illegible]外聞がヨいのかね

強〽そこの女めへ。よく悪らくと[illegible]しらし[illegible]するなア。いゝ来るといのぐ来めへホンニおめへの様な欲ばかりの義理しらずを見てゐるかねへ

吉〽まアおめへの様なものに。義理を立る奴があるものか。畢竟[illegible]ア。仏でもつくべとこそ。フムくと[illegible]

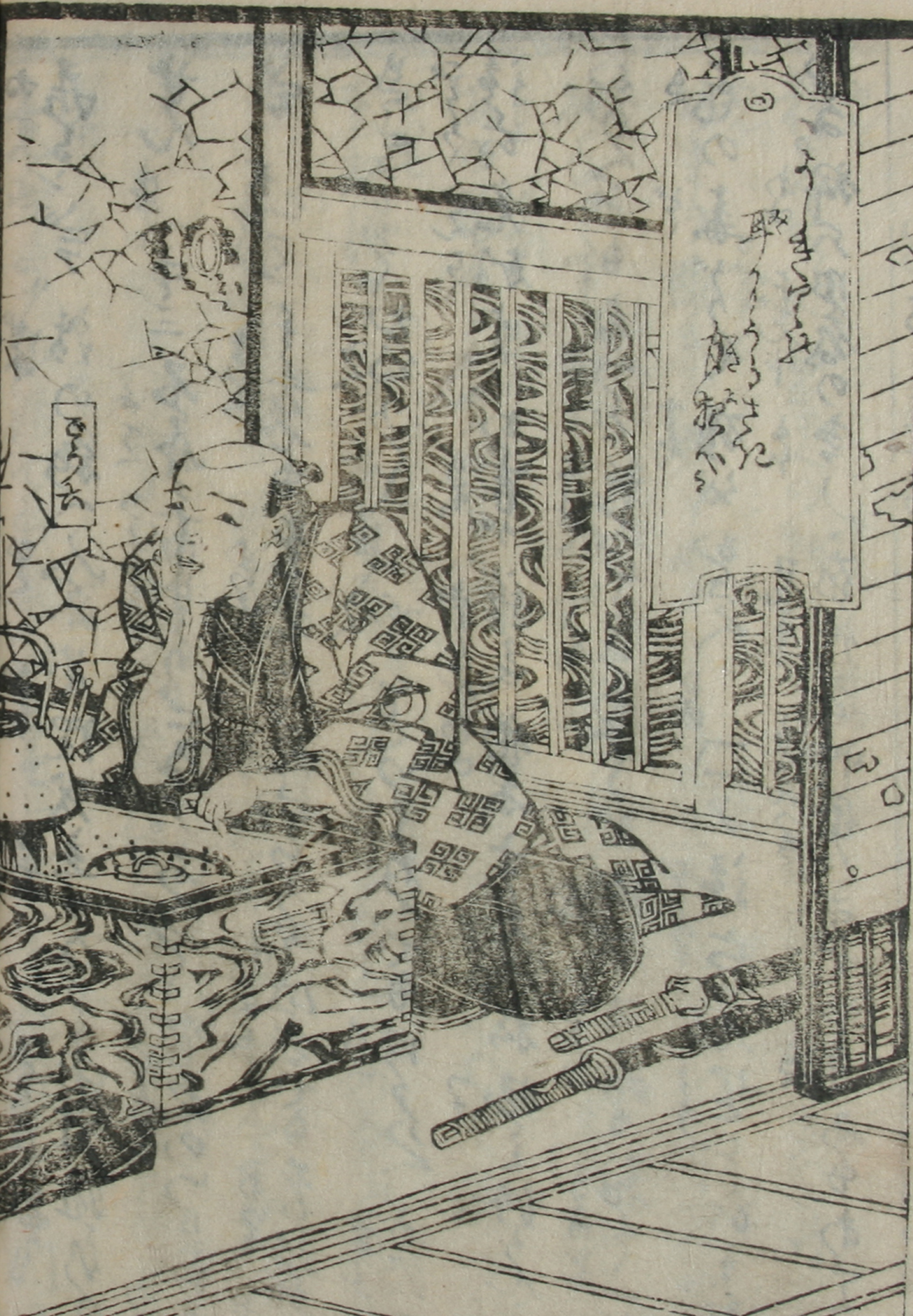
かゝるンだア。銭の欲い人が義理を立るなア。当時流行ません

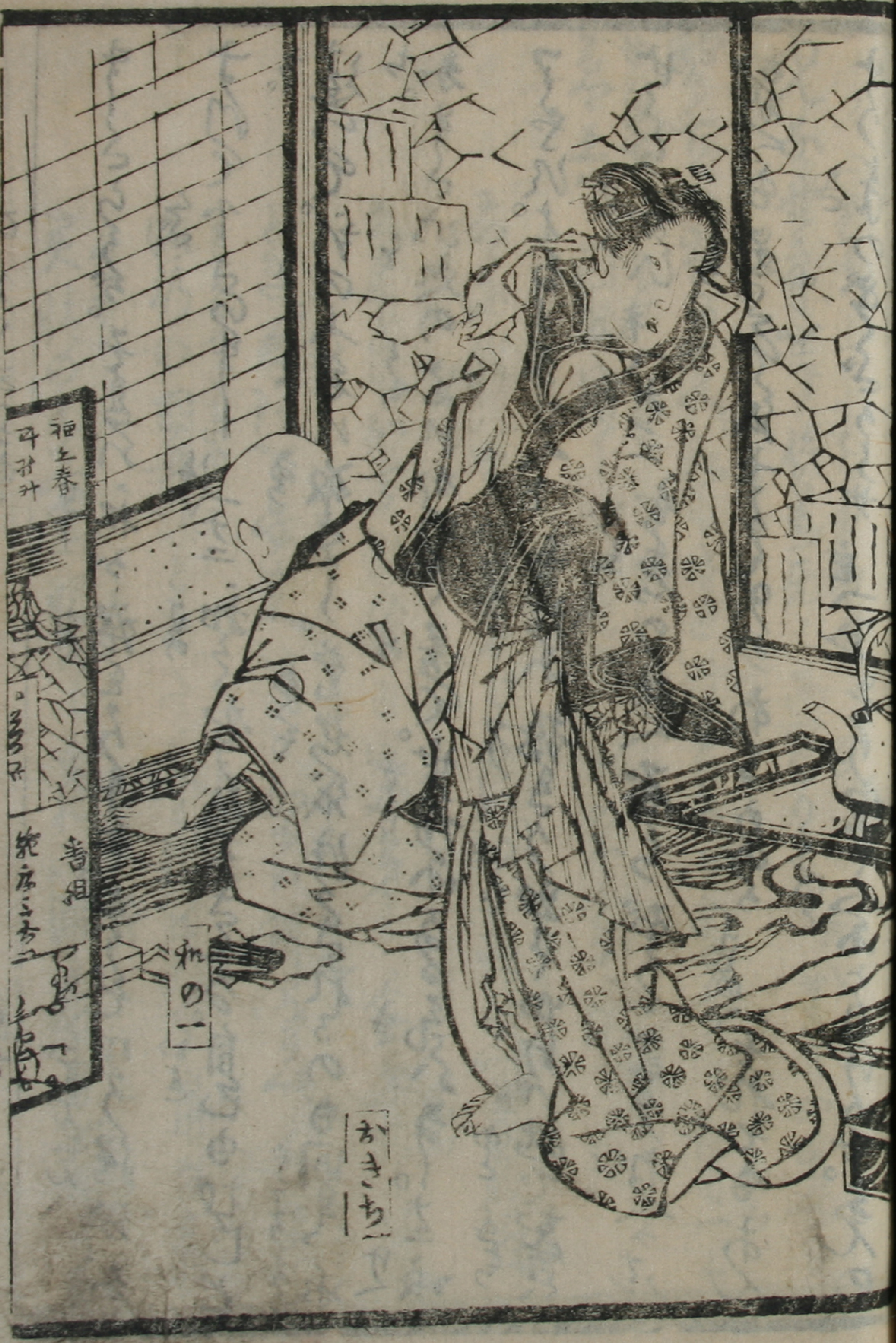
浪「ヱヽ不貞畜生めらア。ふらく愛想のつきた女ども

吉へ「ヱヽ手前でも愛想がつきるだらうが。此方でも愛想がつきたヨ。サアく出て行く

浪へ「跡もといふそれ人でも喧嘩へト流石の吾六先刻より。お吉が雑言悪口すんらか聞。つくぐゝ聞ゐたりしと

おのへども。そつと聴へて立あがると。側に寄る和らく一が気の毒がりて浪六おきへ「ヤア浪六さん宜ひましいるま。婦の田舎の事ノ二の心得性悪。さぞお気のあから


よしまつに
取りうきたえ
館ぬ殿から
ひうぬ


和の一
おきち

ますらが。それは私が浪人しても。どうぞ御見継なさ
すれて下さりまし　治「ナニ和らく申ひるさんな。自己もむかしと
違つて。今の身は浪々。勘当されたる者の国事に
ち。家來をまた此処の家にかゝつて居て。世話になる気はねえ。士分
ではなし。なまじつかとせんへト無理に振きり出けれど。跡で気色
せう〳〵迷ひ　吉「ホンニ御気の毒の。さりながらおまへ、どうやら其処
お前さん等も気すでするすがあるめえ「それでもあん
まり吉のおまへさんサ　吉「さりやア人をよりけりサ。あんの

あんな世界と下 行儀悪しく不[illegible]りく 者へ（サアく）おかまへも

稽古(けいこ)ごとに出るのせん。私はまだ行たところがあのやうな下[illegible]一[illegible]

先達(せんだつ)て。門読して出てゆく。此のほどの沈まし紀

こゝに悪はす ちか者ども。いと慎むべきの淫婦(いんぷ)

そこまでも。かゝる悪の世間(せけん)に知れし。人の[illegible]子い[illegible]

ときハ。義理(ぎり)を知らせん。情(なさけ)を知る稀(まれ)なるべし。近世(ちかごろ)

流行の[illegible]女のごとき。ハ金銭(きんせん)をほこることのミなれバ

実情のあるべき理なし。されバ淫に親しミて身を顧みる

ざるゝ。廓(くるわ)の声(こゑ)ぐりしとりのべまいらせ候。後(うしろ)枕(まくら)の戯(けうく)張(ばり)を
ごしも。看官(みるひとびと)も御(お)まちうし
面揖抹揖寐(めんちようまつちようね)すがくれ。耳(みゝ)をはらねく様(さま)なれど。縁(ゆかり)を
枝猿(えだましら)の。川端(かはばた)紋(もん)一周(ひとめぐり)に関(みせ)はいりて。日(ひ)暮(くれ)のまき奥二階(おくふたかい)洞(ほら)
目(め)にあけし陰子(かげど)さゝへ廊(らう)やゆかしき玉簾(たまだれ)の。とばあやりづら
あからさまの。おすみ(ざしき)ちるまき二重(あまへ)の鬼籍(おふろふ)。縁(えん)の下(した)ふみまど(ひらき)文
ねぎ。そく(ざう)作向(すぢむかう)二階(にかい)のさし物(もの)あんどうその徳利(とくり)まで
らく二階(にかい)で吹売(ふきうり)とまでく一座吹(まつあきおと)の声(こゑ)しかく(おさへ)へおしま

ちんの亭主（ていしゆ）がいひどけましよ。私（わたし）はどうも風邪（かぜ）をさへ居
さんに。あせと云（いつ）て内證（ないしやう）でまさる。元（もと）よりまアノ心意（こころ）さんに
そうかど一物（ぶつ）ましく居（ゐ）て。女房（にようぼう）に仕（し）なるはけりやアなるまいと
いの義理（ぎり）があるによつて何（なに）も私（わたくし）ハ様（さま）に迷（まよ）はせるぞ
が様（さま）じやアなゐぞや。夫（それ）とも私（わたし）ハすまへんが。是非（ぜひ）亭主（ていしゆ）にしま
くつちやアならぬといふならず。猪牙（ちよき）にても乗（のつ）さへ私
きやア遊芸人（ゆうげいにん）稚（をさな）く身（み）にでもありません。どうしてあの
娘（むすめ）と客様（きやくぶん）に亭川て居（ゐ）られませぬのう。亭主（ていしゆ）して私（わし）の

男と生るゝのハ[illegible]く、縦令ハ命らく捨てゝも云ておやア

ねへ。おまへも縦令斯ふ合点へ。何も自己がおまへに[illegible]て居る

てハ。弱りハ捨どやア有べい。今さらおまへを捨て見ちやア

どうも[illegible]へ自殺までもし。爺さんの[illegible]へ済ませことも云

て彼女を本妻として、おかみさんを妾に為ようといふ事が

人の妾側女になる気か、捨へと云でもあらう。去捨ても見る

と。何ぼ撰み捨へ、捨らるゝ。いつその事手強く別れ人

さんがいうちやア。自己が云へ。借銭を償ても。[illegible]

なく猿のやうに。おかへ餌付てやらうといふのだらう自己が心根をも。汲とりて今見猿へドやう。情知をといふあんど「兄サ左様評判こけておいらの猿面がぶでツ子のやうに思ごたくと。道楽者ハいふのじやア無いがねあるけれど初めハ意湯しく浮気らう。出来ねと訳ごけるしど鈍く深くあそびつけちやア。お客へと来うけて物念を哀さるのあり。其の子やア恩と角も。差住仲へ不全も猿し気付く着て此君もいふのやア。手めへの猿人をかまひますれ

さまでく僥倖(しあはせ)ぞ。なれど紙張(かみはり)さんといふ人の男(をとこ)は好否(よしあし)
あり。艶(やさ)しくつて直物(すなほ)で。そしてく美(びんど)しきわけ泣(なき)ながらゐて
おんな張良(こうらいめ)は今時(いまどき)のめづらしい。何程(どう)ぞ添(そへ)てあんなる
人(ひと)の紙良人(てうし)すして美(ころ)しやう。一生涯(いつしやうがい)らくで。幼稚(ようちん)丈(きやう)程いふと
よ。金(かね)の目(め)当になる物なけれど。自己(おのれ)はまた瘦(やせ)ても枯(から)ても
枝楊(えだやなぎ)はおろか、川団(うちは)で息(あふぎ)貌と云(いふ)ちやア。諺(これし)知らぬ人へあのも
粋人。漢(をとこ)士のあつく居るかし。そこへ手(て)前は紙百万両(ひやくまんりやう)の分限(ぶげん)へ
金
是(りう)ではうくと云て。銭(ぜに)五文(ごもん)も無気力(むきりよく)がずまの手(と)紙いふ

気(き)ハ狭(せば)へが。てゐかへハ女のゐるわ。善(よし)とをまへにたつた一人(ひとり)の男(をとこ)ぐさ
うくハ物事(ものごと)穏(おん)便(びん)に人に見(み)せまい乱(みだ)して安堵(あんど)して居(ゐ)ると時(とき)
みやアつ我(こなた)まきやア物の緞子(どんす)燈(とも)しかつさらア。ある様(さう)するとサア
さつきからおまへが来(き)てゐなさるのでござんすハ。ちゑん(よ)ハ爺(とゝ)申(まう)ちつくれ
側(こゝぎ)紙(かみ)らうつく。我(わたし)の如(ごと)きまゝ千(こ)駄(ず)儘(ま)ものでござらう。物の(あの)おまへさんの
気(き)にいらぬるのでも(を)。出来(でき)やらうと思(おも)ハ(まゝ)若(わか)い容(よう)子(す)でもとんだ(とを)お世話(せわ)
みやアこの頃(ごろ)ハ紙治(かみぢ)さんが。久(ひさ)しくきなさんねへ何(なに)ぞ悪(あく)(ごきげん)でも
こゝなおやアしまつら。先頃(さきごろ)いつより通(かよ)ひのござらう。大事(だいじ)にしろエト

昔(むかし)しの話(はなし)をして聞(きか)すには。私(わたし)やア何程(なにほど)同(どう)じ結構(けつこう)と思(おも)わヨ。それまでの難(なん)儀(ぎ)より業報(がくもん)であるもんかへ。小言(こごと)の小言(こごと)さんの許(まろ)へ。漸(よう)やく云つて往(いつ)く。お手(て)まへが孫(か)つて継(つい)て貧(まづ)しくあげまうと思(おも)つてゐる。孫(わ)へやら。偏(ひとへ)にしまひますからくるであるを（いひ）言ちらして。婦(ふ)人(じん)にでも。あれさ小言(こごと)さんが跡(あと)で噂(なぞ)でもいゝでせうらう子誠(まこと)におそろしい世(あま)さ。あれでもお前(まへ)さんの目(め)からは。お若(わか)い優(やさ)しの世ぞと(そんな)おもつて。疎(うとい)んずるでせう子。なんぞと（いつ）言つてそれから口説(くぜつ)の種(たね)とお門(かど)く。扱(そうの)一生(?)手柄(せき)と。御しづく

らうなつ子。サア着替（きかへ）よ着状（ちやくじやう）サアト枕（まくら）の下（しと）なることぞへざんべ
その手紙（てがみ）読（よみ）て娘（むすめ）「コレサ戯談（じやうだん）しなさんなヨッ心中（しんぢう）噺（いそ）へ
といふに言（こと）「サアそんなら お云（いひ）娘「ヲイサいふのヨ言「サアお云（いひ）
サアお云ひ娘「モウやうすの好（すき）ごト心河と見畳（みだよ）も見るべし
言（こと）。とかく若（わか）よ売（ゆつくり）て手紙（てがみ）伸（のべ）し。言庵（ことね）は障子（しやうじ）をあつくなして
その後（のち）もせん。恥（はづ）しく娘（むすめ）ご家（け）へ逢（あひ）ぞなけり

第十六回

気（き）も晴（はれ）つごと隅田川（すみだがは）にせし浮（うき）枝（えだ）神（かみ）ならずぞむしふ

けり。紙治は小春が貌見さんと。言葉を尽して其内に。猶

恋は火の付き易き。[illegible]ありまね煩悩の。[illegible]

の因果同士。思ひよらずもまつはるを。二ッ枕も[illegible]

の。みゝも離さぬ比翼の契り。よしなき[illegible]

いゝても かへらぬ男気に。先 途方もあるべしと。その日

[illegible]く かへりける。宿に お[illegible]は [illegible]て 思へど 男も

飽[illegible]ど。小まちと 息子が その中は。[illegible]よ [illegible]くもあり

あがる。悋気[illegible]今ニ[illegible]。大人気もなく 兎やかく

とぺよも憐しいやらしばし疎しいらぶハせんと女気の縺すと

てゝけれ鬢の髪。乱かゝるや糸柳風にもまるゝ

風情あるく。しどろ色香のなやましく。我心を湿る懐紙の

端を嚙へて対屋より。おもしろ陰の子する〳〵と出

て。ありく入来るまんの鬼婆。悪性女房の哀れ覚

に婆〽コウおしこれ何ぞこれよ寝巻のぞきゝてへどう

も自己とても男の様でも構へず娘〽キヤマア父さん。ゑへ此子をまア

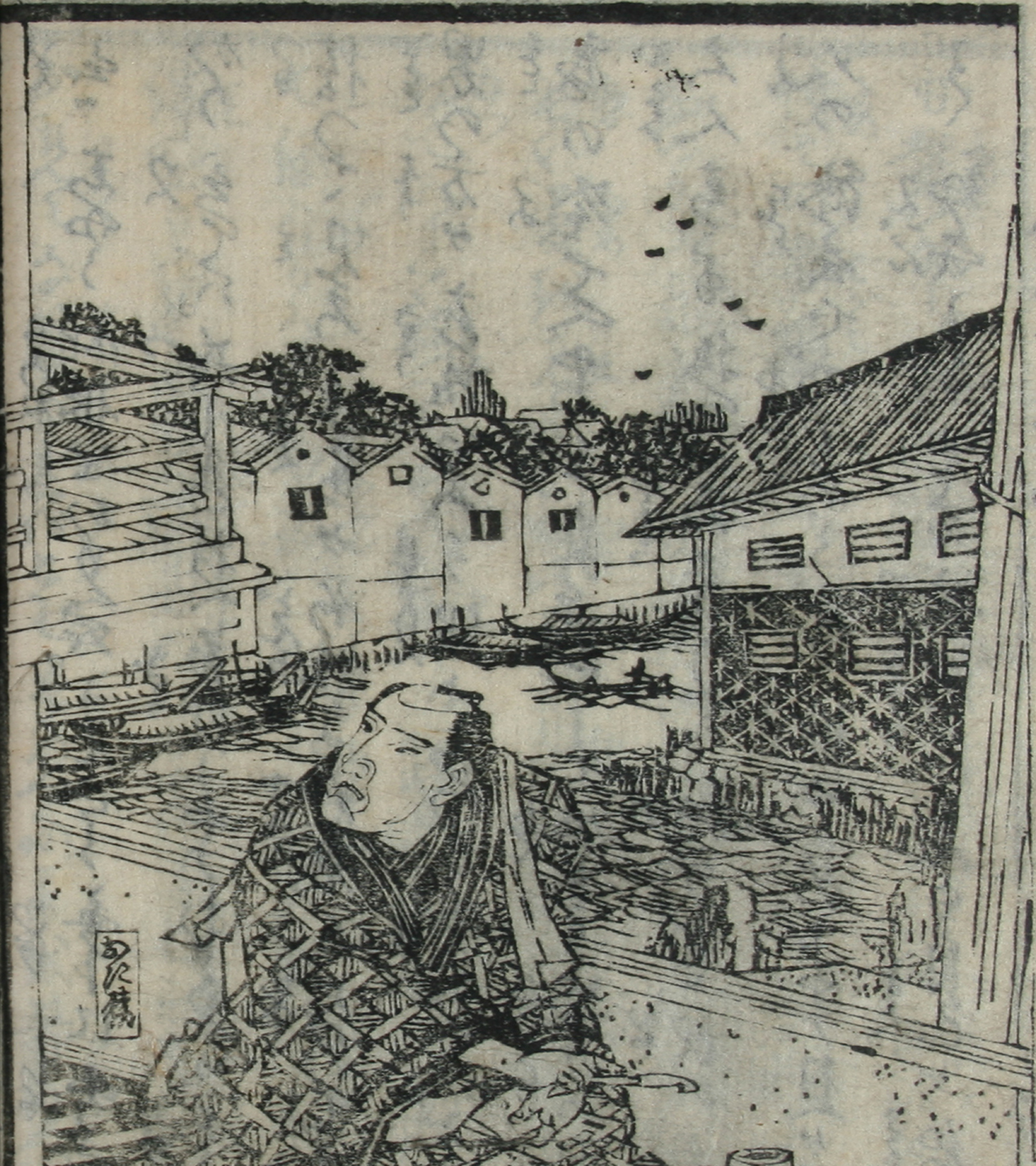
ひろくおぼしめしてヨ。さつ川に寝巻皃をもつてサ婆〽ハヽヽ十二様皃もし

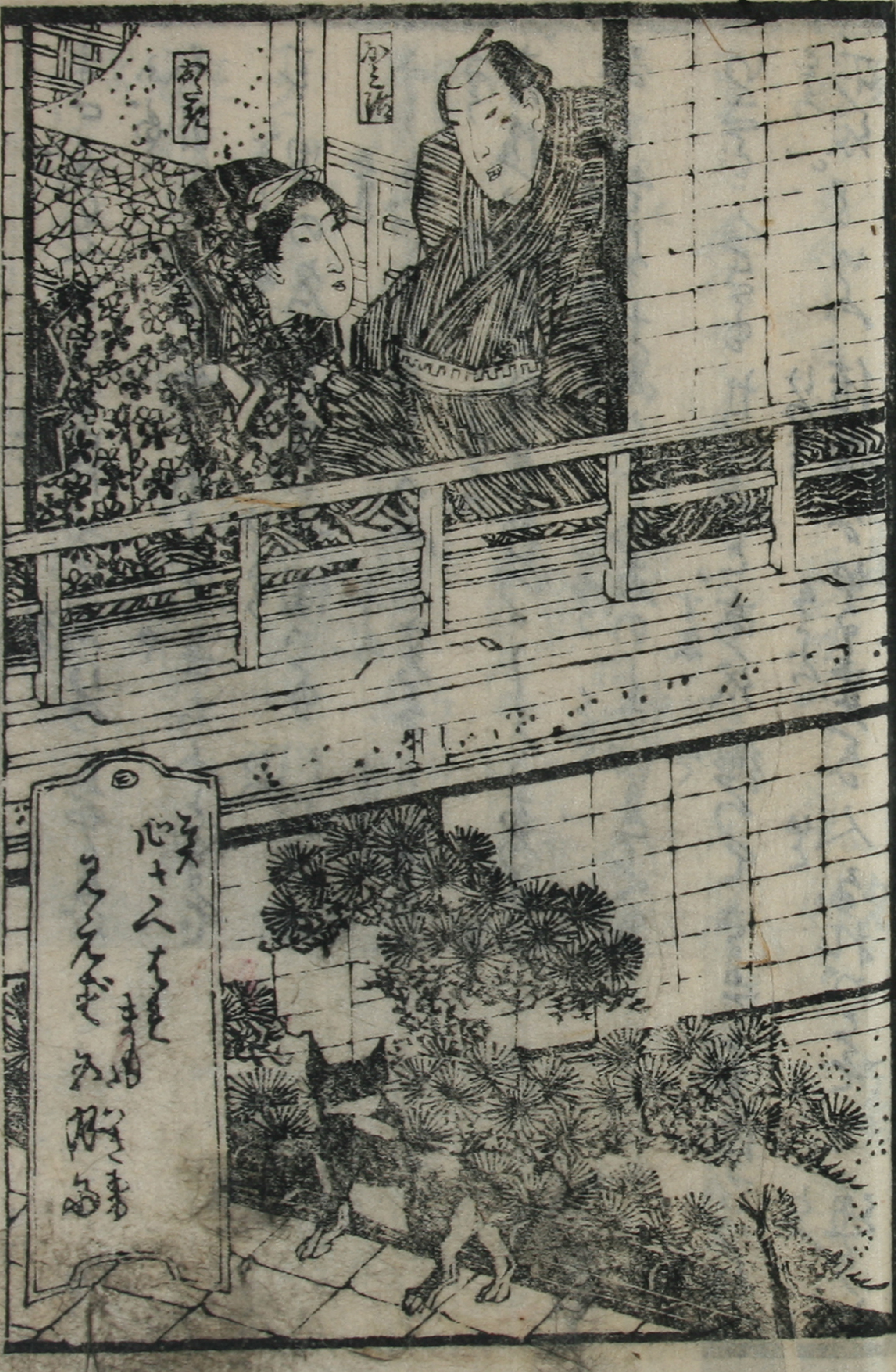
て臭（く）るめんど。手（て）ちよく指（ゆび）よりろく風流がわるい。足が手へ
這入（へゐる）て敵人のゴア。是ア ぞりやアよしヨ。一寸（そと）噫で（て）手めへの夫妻（ふさい）ある
のハ。アノ紙治（かみぢ）さんのるゞらうが。モウ何（なに）も其様（そんな）苦労（くらう）する
後家（ごけ）ハ [illegible] 言「[illegible]へ 語「おさんが男（こ）も 佛（ほとけハ）合わへよく変（それ）
ぜりよのべこ。[illegible]ぞをするなア罪（つみ）ざとりのがサア 其（そこ）紙子の
[illegible]合で。ツイ 自己（おれ）も苦労（くらう）にあるうう。実（よう）ハ先刻（さつき）から[illegible]さん
と喧しく合紙するのど。下宿（しく）で [illegible]く寝（ぬ）かず [illegible]など[illegible]
[illegible]合で。自己（おれ）が[illegible]せへ。ぐらつくとと遠（ちゞ）川と。くるめへの

其儘(そのまゝ)の事さ。無理(むり)とおもひ給ふがまア紙治(かみぢ)さんの云(いふ)ッ
た所(こと)が。附会(こじつける)理屈(りくつ)ざ。此方(こちら)が無面目(むめんぼく)よ。彼(あの)紙
りふ日(ひ)ぬ咢だア。さて咄(しまう)れ何(ど)接りふ理合(まけ多く)がわるいが。そ
ん接木とやらいふ様に。他(ひと)の根(ね)を栽接(つぎき)のやうにして。今(いま)さうそ(そ)
ん接木へ(て)侍(ぞそ)多いいふ世ねへと。云てえりやア一も二も無(ない)
ぶだ。物(もの)の筋違(すぢちげへ)をして。小言(こごと)に言ざかりで無(な)くだ。環(めぐ)り
あたら筋道(すぢとも)正(きい)て(そ)えりやア。全(まつた)く中途(ちうと)の人(ひと)の悪口(しよく)ざと
いふ條(すぢ)が(まう)ふッて。小言(こごと)が身(み)に(そ)おもちやア(へ)急(き)の名(う)に(け)薬(つい)さわど

も登るなし。固親どもハ。何の何某とかいふ無風流な人で。元より情の書翰も有り。斯して見ると。どうも推する木葉られありしか。気まぐれ男どもも思ふやうならぬが。今までのことハ思ひ漫然見てゐると思ふて。自己が身ハ弄ばると。思ひ切て〳〵捨てもその操りありけり。ちと一旦の身の上ハ。引うけて縁付なれバ勿論。思ひまはせバ一生不自由の捨よして思ふト障をうけての浮浪男のはなしハ。さぞ無念くもあてゐるらうが。姿を見る箱なればこそ。手めへに手紙着ねへ許りしき

其（それ）は素（す）からの心根（こゝろね）とおもひねへ。まんざら無下（むげ）に否（いや）ざくとも
かり云（いふ）てハ。居（つ）しまい義理（ぎり）上やアあるめへか。丁度（ちやうど）よく
積（つも）つたところ。手前（てまへ）が何程（どれほど）野暮（やぼ）く眺（なが）めて居（ゐ）さつと
男（をとこ）の方（かた）が左様（さう）いふ張（はり）にあつちやア。どうも何（なん）ぞ
廓（さと）の勤（つと）て人（ひと）せうがあめぞ。そして始（もと）まり安沢（さうけ）のお人せうで
大人（おとな）しくも縁人。此處（あひもち）あるやア別（わか）れんで。親（おや）の異見（いけん）やら
人（にん）の誹（そし）りで。聴（きゝ）もめられる條（よ）のあのようやア主（ぬし）が是（こと）ゑりと
よく勘弁（かんべん）して見なさる能（と）。紙治（かみぢ）さんも自己（じぶん）が思（おも）へとおもひ


あく蔵


乃之助
お菊
㊂
美心十人を[illegible]
[illegible]

すきな人とも不便(ふびん)ながら親(おや)見ればこそ。縁付(ゑんづけ)させて
不自由(ふじゆう)の旅人せうふして暮(くら)よとまで云(いふ)めーやア有(ある)めへが
夫(をとこ)男の名ばかり。我儘(わがまゝ)でも引(ひ)かゝり沈貧(しんく)に堪忍(かんにん)して。俺(おれ)
ア一生(いつしやう)ルりヨとりよ。不実(ふじつ)な世間(せけん)の人でこそぶらい。中(さう)く
夫様ハ云ね人。波見おびつしく悪(にく)さ勝(まけ)ぶ。他(ほか)の女房(にようぼう)では
るし。家(うち)が十両(じふりやう)が十両の手切(てぎれ)でも出(ご)さうと思(おも)やア
いきてもくさてもかしぐと。末(すゑ)紙縁(ゝ)つてさえても途方にくれ
所(ところ)紙。まりよ結構(けつこう)な篤実(とくじつ)な人(ひと)なればこそア通(とよ)りれ

云ツ表具やの紙唐紙張替へじゃア。修まりより近方もこざりげず

かゝろう張へ申さで。表とも裏とも。ナア お徳。此頃しじゃア ある

めへら。手めへよく万紙張して紙張さんのいふ通り

みりて貴方がいふト天さんの湖意つまらして。おめへ達やど

日頃より優しき紙張が心根は誰は律さまし女気

まへ。流石水縁と煩悩の。おとり易さよ哀色し

をろのこかめてへ。何縁の因果とかなしさの。独て猶へて

出ろぎも。平ろりと蔵ずる間の情。願ようるおそく眠れ

拙者（せつしや）ハどうも何（なに）に仕方（しかた）ハわるいまでつかねへ一（いち）りやア男（をとこ）へ面当（つらあて）に死（し）んでミせるとか。継（まゝ）しい先（せん）の女（をんな）と密会（みつくわい）とかいふ。無分別（むふんべつ）な仕方（しかた）であらう。親子（おやこ）もあらうが。他（ひと）も哀（あは）れなり。も義（ぎ）をたてよ。親（おや）にも安堵（あんど）させ。世間（せけん）の人（ひと）にも賞（ほめ）らるゝやうよりの仕方（しかた）ハ。今（いま）おれがいふより何（なに）みやみわるあく家（いへ）へまゐりいりをせひ△まゐつて。生涯（しやうがい）のおりはの通（とほ）りよ法体（しゆつけ）り孫へ務（つと）めて孝（かう）すれば奇麗（きれい）ぐらい。そんなおやく、こちの上紙漉（かみすき）さんに頼（たの）まうさうな宛（あて）つゝ暇（ひま）しましたう。さらし

まこと何時来るも知れぬのは子トいふものハ一寸した方の障に成

あけく　紙張「イヤ爺さん。面目次第もねへけれど。誠におまへ気

の毒。去しおかみが難儀の事で。私も無理なあまりと抔

おまへがぞんく窮しの事を。余義ない訳も聞へるから

お此みもよく承知して。漸々得心させやしたさ。その代りにや

末始終どうぞ見捨ずにお最前對者に。あつく頼んで

おくんなせへ　紙張「そりやア今下宿でもまつたれ尋ねた

教ひやうな殺しぢやアないかう。爺さんは其処ハ遣して

お案（あん）じなさんな 待「ハイ。言（いふ）までもないが及（およ）ばれへんがサア親（おや）へ[illegible]る

病（う）なりので。様々（さまざ）ご案（あん）じやれ。サア おかいや。紙治（かみぢ）さんも

アノ 通（とほ）り云（いひ）なさるゝ。小春（こはる）さんと姉妹分（きやうだいぶん）になりゆく

中（なか）を能（よく）するがいゝ 吉（きち）「アイ 一云（いろ）さむかり。紙治（かみぢ）の顔（ころ）を[illegible]

つまと見（み）て。莞爾（につこり）と笑（わら）ひ「南無（なむ）ずる可笑（おかしい）様（さま）へ来（それ）じやア これ

うしろ。お前（まへ）さんを思（おも）ひきんとりゐのさへ 治「左様（さう）ヨ 長「ヨホし 何（なん）

ござるも あつしいの様子（やうす） 待「そんなら モシ 具（ぞん）ね おかへト への

御（ご）都合（つがふ）次第（しだい）で小春（こはる）さんと此奴（こやつ）紙（そ）一所（しよ）に寄（よせ）て。ちよんら

継紙（きつぎ）させて遣（やつ）てお呉（くん）なさんせへナ　治「アイ　左様（さう）しやうなら　喜「私（わし）も私（わし）しやア何時（いつ）でもいゝ。お滝（さん）おめへの都合（つがう）ハどうだ　喜「私も何時（いつ）でも宜（よう）ござりますハ　治「そんならバ私（わし）とトすこしかんがへ　今日（けふ）と言（いつ）ても明（あん）まり急（きう）だ。翌昼過（あさひるすぎ）てく何処（どこ）ぞへ往（いつ）う。おめへその積（つも）りで支度（したく）して居（ゐ）な　喜「アイ　お爺（とつ）さんも往（いく）のかへ　撥「十二　自己（おらわ）いつぞと宜（よ）からう　治「何のうおめへ　さんもお出（いで）なさんせへナ　撥「何様（どう）でも宜（いゝ）が。志かし翌（おさ）ハ色（いろ）く用（よう）があるから　治「そんなら翌（あす）の事（と）ヨ。そんならバ私（わし）しやア[illegible]

せうト紙治(かみぢ)へこゝ紙こち出(そで)く。㐂(さま)し合(あい)の衣(きぬ)りしうを小春(こはる)にかゝり。重(おも)の約束(やくそく)をもせんものと。急(いそ)ぎ小春(こはる)が方(かた)へゆきしころ。其日(そのひ)小春(こはる)ハ心易(こゝろやす)き友(とも)だちに誘(さそ)ハれ芝居(しばゐ)へ往(ゆき)しとのるす跡(あと)へ詮方(せんかた)なく。隣(となり)なる老母(おば)さまに口上書(こうじやうがき)をして。小(こ)春(はる)が帰(かへ)りなバ届(とゞ)けくれよと頼(たの)みおき。天満町(てんまち)へかへりける是(それ)とも知(し)らで其夜(そのよ)四(よ)ツ前(まへ)よ。小春(こはる)ハつれだちて帰(かへ)りつゝ火(ひ)を灯(とも)しい着物(きもの)を着(き)かへなどするに隣(となり)の老母(おば)ハ門口(かどぐち)をあけて入来(いりきた)りへ(なく)お小春(はる)さん今日(けふ)ハおそのしまぜねへ。嘸(さぞ)おも

そふかいさらう子　そう〱ヨヤ　あの母(かゝ)さん廿(はたち)からわかがりヨ。毎度(まいど)七文
[illegible](ろうと)や浅か世話(せわ)さしますありまする日。今(ねん)子。おげあろとの
て厄(か)を(を)ぞヨ。どうやア按(あん)まり(す)おかけれど。是(これ)でもか
ちと宮(みや)ぐヨあゝ〱(むく)ヨや〱ア最大(いかいと)十二かよしろえまさへで
気(き)の毒(どく)な。そう〱黙(ごさく)しやア。此節(るす)が大好(だいすき)で子。茶(ごけ)自分(じぶん)ら
のでやア。遠方(えんぼう)様(を)さゞもあつたが。今(いま)じやア此様(こんな)人が捨(ぜ)られ
あいらく。些(ちつと)かまへの方(まう)へ寄(よろ)て置(おい)てお前がり〱(まる)十八から生(?)れ
なかり。そうして親(おや)さやア。今日(けふ)も一日(いちんち)何(なに)もせ(?)ず(ず)て寝(ね)て居(い)く。おかゝが

夏(や)らう。毛ぬく權(ごん)様(ずべ)くまとるはヨ。サア遠慮(ゑんりよ)なしにお上(あが)り

ありがたく ぞ「アイ それなら頂(はさ)みませうねト鮨(すし)を二ッ三ッ食(くひ)ながら

ぞ「アノ お春(はる)さん 私(わし)やア許嫁(いひなづけ)のあるをしつてるヨ。遠慮(えんえ)して

おくれナ はる「ヱ あんまりへ ぞ「先刻(さつききやうこうち)紙治さんがお出(そ)でござつて蝋(ろう)

なりんざう。口上書(こうじやうがき)をもつて おまへさんが文(ふみ)なんぞもつてゝあげて呉(くれ)

ろと お言(いひ)ざッけが。サア今(いま)あげやうと思(おも)つて居(ゐ)るね。ぞの紙(ど)

亭主(おきてやく)をしても何程(どう)しても 知てるはへろう。色(いろ)く気(き)を揉(もん)でさぞ

しさはまいど。誠(まこと)にまことなるのがね。どうなりと宜(よう)ござらう ちよ「ヨヤ

左様（さう）さ何（なん）の用（よう）ずらねへ　むく「旦（だん）じやア何（なん）とも云（いひ）ませう
ないのことでもないが。一寸（ちよつと）渡しこ手紙（てがみ）どうけが子。誠（まこと）に私（わし）
しやア気（き）の毒（どく）でござるはいヨ　ちや「十二　どうも無（な）きつとめのを
此方（こなた）はなかなかね。何（なん）も恐（おそろ）しい事（こと）でもあるまい。たゞく態（わざ）わ
ざりハまうしまゆ気（き）まじめしいごらう　むく「お出（そ）ろすッさう。ちやめいれ詫（こび）
云（と）従しるかへけりやアなんくるはい。終（つひ）しら御一（ひと）さかに情（この）なれもの
あんぞんぞ。来（く）しこるすはなかいうサ。誠（まこと）に手ウくまでも気（き）のどく
ごさへなる「十二　さま様（そんな）言（いひ）でもなくッさへ由室（よん）ね。ぞれ継（つぎ）も態と

碌(ろく)にものもいはずやあるまいし むく「へそりやア左様(さう)だけれども腕(わん)まくりの麁末(そまつ)よしさせるで あう「アサ老母(おふ)さんモウいゝわね [illegible]んとしますとみる由(わの)おまへへ入らず むく「へ何でも[illegible]夜(よ)が明(あけ)ると [illegible]までも上(あげ)て[illegible]。何様(どう)しとウト[illegible]の[illegible]あれば 額(ひたい)に紙あてゝ吩咐(いひつけ)して。隣(よる)まるこゝろが宿(や)へ帰(かえ)りけり

花廼志満臺二編巻之中終